
終わりに

本検討会は、救急医療において、近年、重要性が指摘されているプレホスピタルケアの充実を図ることを目的にメディカルコントロールの高度化に資する情報通信システムの検討を行った。

本検討会が提案した高度医療情報伝送システムは、動画等大容量データが伝送可能な汎用性の高いIP無線伝送システムであり、救急業務以外の幅広い公共分野への活用の可能性についても言及した。

救急医療の現場においては、メディカルコントロールを効果的に行う上での画像情報の有用性について以前から強く認識されており、救急車から医療機関へ動画を伝送するための試みも携帯電話や無線LAN等を使用して数多く実施されている。しかし、移動体からの高速無線伝送は技術的な制約が多く、品質及び通信エリアの両条件を満たすシステムは実現に至っていない。

このため、本検討会では、メディカルコントロールにおける各医療情報の有用性を見極めを重視し、医療現場の関係者に対するアンケート調査や公開通信試験を踏まえたヒヤリング等を積み重ねた。今回整理した必要な医療情報の種類及び所要品質は、今後の様々なシステム開発を行う場合の指標ともなるものであり、これを特定できたことは本検討会の大きな成果である。

また、これを伝送するためのVHFマルチホップ無線伝送技術を活用したシステムを提案し、それに求められる性能を明らかにするとともに、所要周波数帯幅をはじめ実現に向けた技術的課題等を整理することができた。

一方、システムの検討を通じて制度的な課題も明らかになってきた。例えば、通信インフラ整備として、「誰が財政を負担し、どのように運営するか。」といった問題も、救急医療制度においてメディカルコントロールのあり方が今後どのように方向付けられ、その中で情報通信の役割をどう位置づけるかということに大きく影響される問題である。

このような課題はあるものの、現場である救急機関、医療機関いずれからも今後の高度医療情報伝送システムの実現に対する大きな期待が感じられた。

今回の成果が、高度医療情報伝送システムやこれの実現を前提とした救急医療の高度化に向けた取り組みの引き金となり、今後進展が予想される高齢化社会において、安心して生活できる社会の建設に少しでも役に立てられることを願ってやまない。